

立ち読み版



東京都議会議員・東京都議会議長
みやけ しげき
三宅 茂樹さん
1950年東京都生まれ。慶應義塾大学卒業後、荏原製作所勤務を経て、英会話学校の立ち上げ、麻生太郎衆議院議員秘書などを務める。1997年の東京都議会議員選挙で初当選。以降、7期連続当選を果たし、都議会経済港湾委員会委員長をはじめ、予算特別委員会委員長、都議会自由民主党政務調査会長、幹事長などを歴任。2021年、都議会第50代議長に就任して議会を運営する。

【写真】安岡 嘉

診断士&都議会議員として 中小企業支援に力を尽くす

【取材・文】原 正紀

株式会社クオリティ・オブ・ライフ代表取締役、株式会社スマートバリュー（東証一部上場）社外取締役、キャリアコンサルタント協議会常務理事・事務局長、高知大学客員教授・経営協議会委員、成城大学非常勤講師、中小企業診断士。早稲田大学卒業後、株式会社リクルートを経て起業し、人材ソーシャルビジネスを展開。著書「定年後の仕事は40代で決めなさい」（徳間書店）、「インタビューの教科書」（同友館）など多数。

HARA'S BEFORE

三宅さんは都議会第50代議長として地方公共団体のリーダー的存在であり、中小企業診断士や経営者としても豊富な経験をお持ちである。そのポジションから地域行政や中小企業振興などについてどう考えているのか、じっくりと伺いたい。



中小企業の活性化には 診断士の力が不可欠

スタートとなりました。
また、議長に就任した頃は、新型コロナの第5波の真ただ中でした。都議会では、これまで50回以上にわたって東京都議会災害対策連絡調整本部会議を開催し、知事に対して直接、質疑や提言などを行ってきました。長引くコロナ禍で都民の生活や経済に大きな影響が出ていますので、都議会としても、より良い施策の実現に向けて全力で取り組んでいきたいと思っています。

原：都議会議員として、中小企業支援についてもこれまで多くの取り組みをされてきました。

三宅：私の最大の政治テーマは「中小企業の活性化」です。私自身も中小企業診断士であり、都議会議員の立場でもあることから、行政と診断士が連携した中小企業支援という活動に注力してきました。具体的には、東京都中小企業振興公社が行う中小企業の経営相談などを中小企業診断士が担当し、経営者の悩みを聞いたり、企業の現場に赴いてアドバイスを行ったりするような事業を推進してきました。

原：まずは都議会議長として、現在の活動についてお聞かせください。

三宅：都議会というのは東京都議会だったときから数えると、実は国会よりも歴史が長く、日本の議会の先駆的存在なのです。7月の都議選で7期目の当選を果たし、第21期東京都議会の任期初日の7月23日の臨時会で、第50代議長に選出されました。身に余る光栄に感謝する一方で、都議会の運営に当たる責任の重さを感じました。就任初日には東京2020大会の開会式が行われ、議長として参列し、とても感慨深い

それに加えて、地域活性化の原動力になる商店街活動をサポートする専門家として、診断士に活躍してもらような事業も、最も力を注いだ取り組みの一つです。私が都議会議員に初当選した当時は、都内には3,000弱の商店街があり、東京における商業活動の核となっていましたので、その活性化はとても重要だと考えてきました。街の賑わいを創出して、人々が交流する地域コミュニティの中心である商店街を活性化するために、東京都の商店街振興予算も充実させてきました。多くの診断士の方々にも

続きは雑誌で